

【体験①】 コミュニケーション

▶声に出さずに、身振り手振りで相手に伝える

たとえば…

☆バナナの皮をむく手振りで「バナナ」を表現

☆スイカ割りをする身振りで「スイカ」を表現

☆バットを振る動作で「野球」を表現

できるだけ顔の表情を豊かに、
口や手を大きく動かすことが
大切だと感じた

【体験②】 サイレント・サッカー（デフサッカー）

☆「デフサッカー」は、基本的にサッカーと同じルール

☆チームメイト同士の声掛けが難しいため、
常にアイコンタクトが必要となる

☆試合の始まりや終わり、ゲーム中の反則があった場合、
審判の「笛」だけでは選手へ知らせることができないので、
「旗」を使い視覚的に補って競技を行う
そのため、常に審判の様子を見ている必要がある

耳栓をつけ、声を出さずに
音のない中でゲームを体験。
チームメイトとコミュニケーションを
とることがとても難しかった。

【体験③】 デフ陸上

スタート体験をしてみた

☆スタート時、選手は審判の「ピストル音」と合わせて、
足元の「スタートランプ」(赤・黄・白)を見てスタートする



位置について



よ〜い



どん!!



「デフスポーツ」から学んだこと

耳に障害がある方々は、工夫を凝らして聴こえる私たちに「伝えよう」としてくれます。一方、聴こえる私たちは耳に障害がある方とコミュニケーションをとる場合、より一層の工夫をしなければ伝えることが「難しい」と思い込んでいました。手話以外の、身振り手振り、大きな口の動き、アイコンタクトだけでも伝えられる、ということにあらためて気づくことができました。手話ができなくても、音や光などを組み合わせ、工夫すれば、耳に障害を抱える方々と一緒にスポーツができるということを学びました。

聴こえなくても、聴こえても、「工夫」によって、分かり合え、伝え合えたりできる、それが当たり前前の社会になって欲しいと感じました。

私たちがその一助となれるよう、これからも活動してまいります。



～知らなかった聴覚障害のこと～



受講者A

日本で使われている手話は、
世界共通の手話ですか？



講師

答えは「NO」です。世界に通用する手話は
「国際手話」で、世界共通です。



受講者B

聴覚障害のある方だけが生活する家の中は
静かですか？うるさいですか？



講師

答えは「うるさい」です。テレビなど
聴こえづらいため、大音量となります。



受講者C

聴覚障害のある方は、
障害者スポーツ大会である「パラリンピック」に、
参加できますか？できませんか？



講師

答えは「参加できません」です。多数ある
障害者の支援組織により、独自の大会が、
4年に1度開催されています。



研修会に参加して…



受講者A

正直、デフスポーツについてはあまり
知りませんでした。講師の橋本一郎先生は、
最初、手話で講演を進めながら、途中で
いきなり話し出され「私は話せるんですよ」と。
人を引きつける能力がすごくお有りで大変
素晴らしかったです。
また手話など教えていただきたいです。



受講者B

音のない世界を想像すらしたことが
ありませんでした。物や思い、方法や
結論などを伝える事の難しさを
デフスポーツの選手の皆様や講師の先生の下、
楽しく体験することができました。会話をして
聞こえる日常を過ごしている私ですら難題です。
この研修会を通し、聴覚障害をもつ方々の
コミュニケーションの一端はとれたものの、手話や
表現力を身につけて心の声が聴こえてきたら
良いなと思いました。